酔仙酒造「大船渡蔵」

百花（ももか）の庭

2013 年 3 月

制作提案

全国女性造園技術者の会

「百花（ももか）の庭」プロジェクト

醉仙酒造株式会社 御中

昨年9月に貴社を訪問してから時は移り、ウメの便りが聞かれる季節となりました。大変遅くなりましたが、大船渡蔵の緑化計画書を提出いたします。

私たち全国女性造園技術者の会は、女性の造園技術者で構成する会員200名ほどの小さな集団です。東日本大震災発生以後、専門領域を生かし何らかの支援活動を行いたいと話し合っておりました。元大船渡在住の当会員との小さなつながりから醉仙酒造植栽計画提案書を作成贈呈する機会を頂き、会員一同大変感謝しております。

「百花の庭」計画書作成に当たり、首都圏在住の会員の有志が分担して仕事や家事・育児の寸暇を縫って、それぞれの専門技術を生かして作成いたしました。現場の状況把握が一部不十分なところもあり、今後も引き続き「百花の庭」を目指して私たちも微力ながら植栽などの支援活動を展開していきたいと考えております。

この提案書を縁として、「百花の庭」が大船渡蔵に定着し、気仙の人々の花見や憩いの場としての賑わいが一日も早く訪れることを願っております。東日本大震災から 2 年が経過しましたが、被災地の復興は緒についたばかりと伺っております。気仙の皆様の一日も早い復興を願い、この小さな提案書から復興の芽が芽吹いていくことを会員一同願ってやみません。

2013 年3月吉日

全国女性造園技術者の会
会長　仲　結花

全体コンセプト

酔仙酒造大船渡蔵「百花（ももか）の庭」

地域の華やぎと憂いの歴史の記憶を百（＝多く）の花で後世に伝え、陸前高田市、大船渡市を百花（ももか）の里とすることを目指し、酔仙酒造新工場にその始点となる「百花（ももか）の庭」づくりをご提案します。

華やぎの歴史

かつての陸前高田の酔仙酒造の工場には 100 本を越える桜があり、花見の名所のひとつでした。また豊かな気候風土に支えられ、地域には躑躅（つつじ）、石楠花（しゃくなげ）、薮椿（やぶつばき）などの花の名所も多く存在します。

憂いの歴史

1896 年（明治 29）、1933 年（昭和 8）、そして 2011 年（平成 23）3 月 11 日三陸地方にはおおむね 1 世紀（100 年）に一度の頻度で、地震に伴う津波がおしよせ大きな被害を受け復興してきた歴史があります。

大船渡の花の名所

大船渡では、寒さの中咲く「椿（つばき）」から、春を象徴する「桜（さくら）」、初夏を彩る「山躑躅（やまつつじ）」、夏を迎える「石楠花（しゃくなげ）」まで、リレーのように花が見られます。

○碁石海岸（国指定の名勝及び記念物）

末崎半島の東南端約 6km の海岸沿いにある碁石海岸は、約 150 本のソメイヨシノや遅咲きのヤエザクラが植えられた「桜」の名所です。
また、「桜」の他「椿」でも有名で、ヤブツバキの太平洋岸の北限にあたり、ヤブツバキの群生地や「大船渡の三面椿」、「世界の椿館・碁石」、「碁石椿園」等があり、様々な「椿」も楽しめます。

三面椿

○五葉山

三陸海岸沿いの最高峰で、標高 1,351m、県立自然公園に指定され、「山躑躅」や「石楠花」の群落は県内屈指の規模を誇っています。
ムラサキヤシオツツジ、ゴヨウザンヨウラク等の「山躑躅」は、赤坂峠から畳石付近にかけて群生し、５月下旬から６月上旬頃に花の最盛期を迎えます。「石楠花」は山頂付近一帯に群生し、花の見頃は７月上旬になります。中でも、ゴヨウザンヨウラクは五葉山の固有種として、保護研究対象となっています。

シャクナゲ

ヤマツツジ

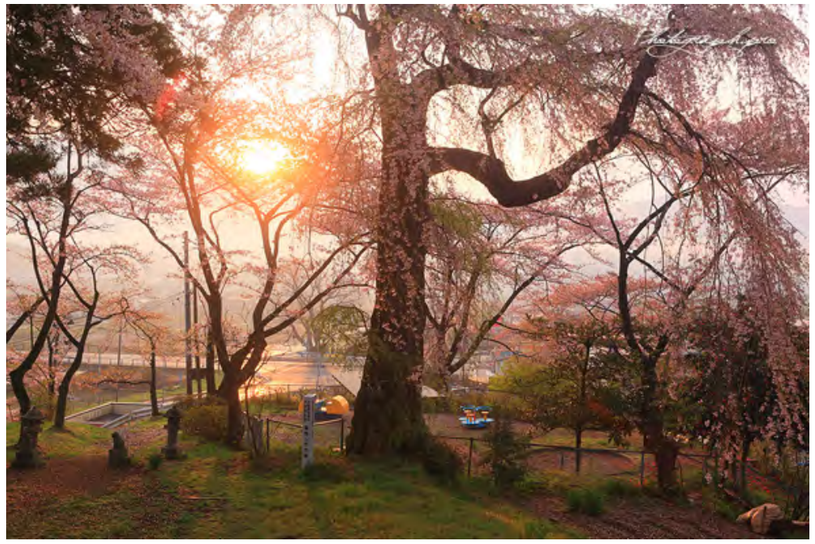
ゴヨウザンヨウラク

ムラサキヤシオ

五葉山で見られる代表的な花木

○その他「桜」の名所

大船渡市の天然記念物に指定されている「吉野森神社の奥州しだれ桜」、「長安寺の奥州しだれ桜」、「赤崎町中井の奥州しだれ桜」、「天照御祖神社の紅ひがん桜（２本）」は、いずれも大木に育ち一本でも十分な見ごたえとなっています。


吉野森神社の奥州しだれ桜

長安寺の奥州しだれ桜

計画地の現況と計画方針図（ゾーニング）

既存の自然を基に、魅力的な庭の展開を図ります。魅力とは、ここで働く方々や地域の方々が集い、語り合う場所が百花の庭になることです。ここに集う人々に自然の恵みの季節の花とお酒（水）でもてなしの気持ちを伝えます。そして、これまでの「酔仙のお花見の楽しみ」をつくり、継続し、地域の新たな花の拠点となる計画を提案します。

2．導入路

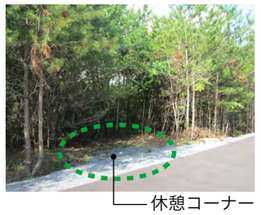
●濃い杉林の中をゆるやかな曲線を描きながら蔵へと進むアプローチ
●両側は急勾配の斜面があり、背後にはスギ・ヒノキ植林地、落葉樹の林がひろがっています
◆日常の通勤や一般来客者の方々をもてなす、テーマ性のある緑と花の路を形成します

1．導入口

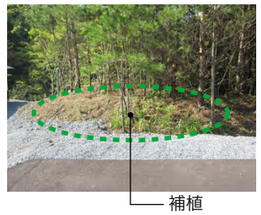
●案内板と大型タンクのある大船渡工場への導入口
◆将来の一般来客者へ向けて、市道からわかりやすい目印を形成します

6．いこいの庭

●蔵の北側の外周は、コナラを中心とした落葉樹林が形成されています
◆裸地や現況樹林間を活用し、新たな憩いの空間を形成します



休憩コーナー



補植

5．まねきの庭

●大船渡工場の顔となる正面玄関入口両側には坪庭があります
◆両手を広げ、特徴的なおもてなしで、全ての人々を迎える演出を図ります

3．ゲート

●ゲート前の空地は現況は砂利敷で、省管理のスペースとなっています
◆導入路からの目印植栽の演出や、内庭と外をつなぐ、印象的な入口の空間を形成します

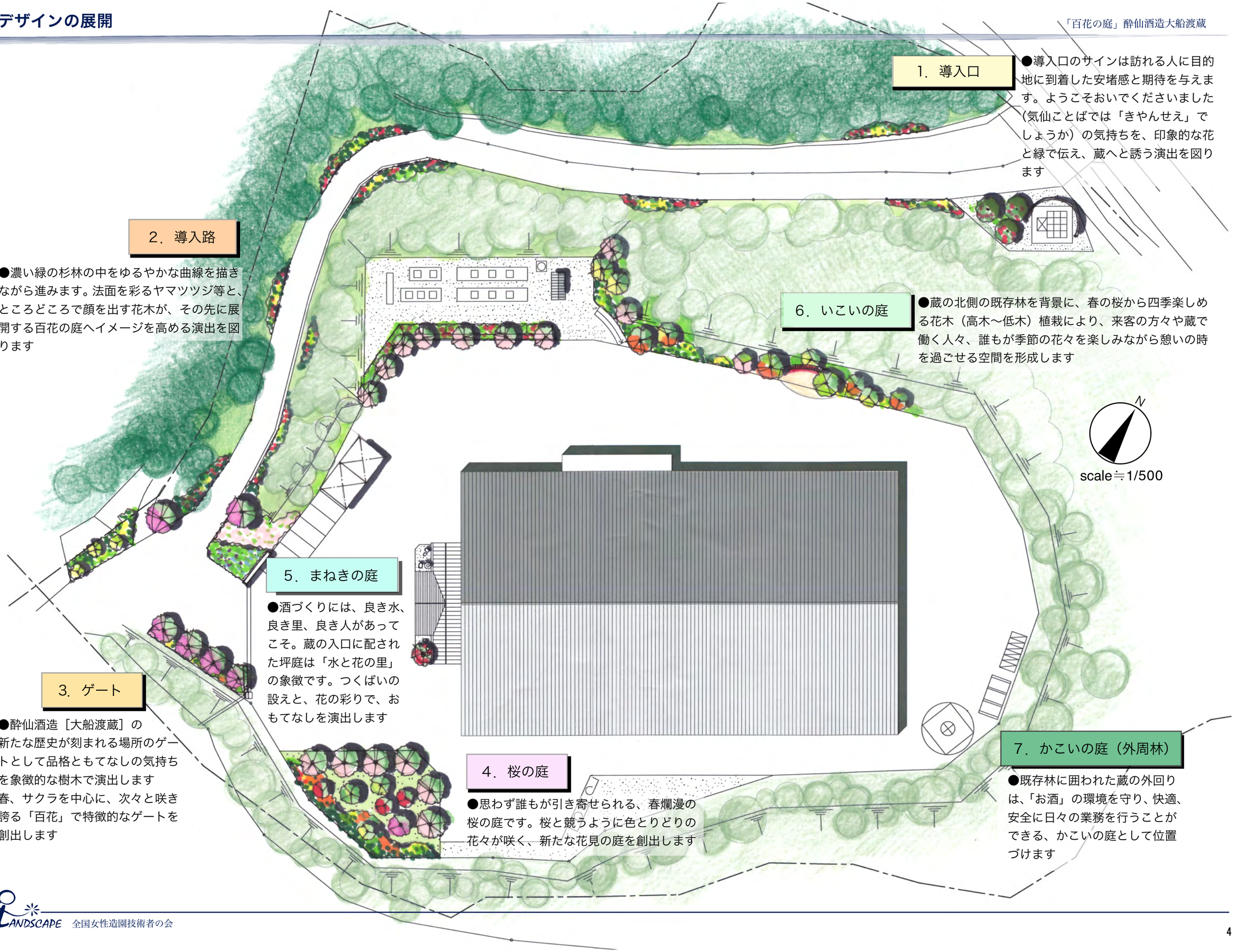
4．桜の庭

●敷地内で、まとまった植栽スペースの庭的空間です。
●2012 年 11 月 14 日に鶴岡八幡宮の職員の方々によってソメイヨシノが植栽されています。
◆既存のサクラと調和する春の庭、特徴的な花見の庭を形成します

7．かこいの庭（外周林）

●外周はコナラ等の落葉樹とアカマツ混交林に囲われています。その林縁は実生と思われるアカマツが多く生育しています
◆人、蔵、酒の質を高め環境を守る、外周の緑の保全、育成を図ります

デザインの展開



1．導入口

●導入口のサインは訪れる人に目的地に到着した安堵感と期待を与えます。ようこそおいでくださいました（気仙ことばでは「きやんせえ」でしょうか）の気持ちを、印象的な花と緑で伝え、蔵へと誘う演出を図ります

2．導入路

●濃い緑の杉林の中をゆるやかな曲線を描きながら進みます。法面を彩るヤマツツジ等と、ところどころで顔を出す花木が、その先に展開する百花の庭へイメージを高める演出を図ります

3．ゲート

●酔仙酒造［大船渡蔵］の新たな歴史が刻まれる場所のゲートとして品格ともてなしの気持ちを象徴的な樹木で演出します
春、サクラを中心に、次々と咲き誇る「百花」で特徴的なゲートを創出します

4．桜の庭

●思わず誰もが引き寄せられる、春爛漫の桜の庭です。桜と競うように色とりどりの花々が咲く、新たな花見の庭を創出します

5．まねきの庭

●酒づくりには、良き水、良き里、良き人があってこそ。蔵の入口に配された坪庭は「水と花の里」の象徴です。つくばいの設えと、花の彩りで、おもてなしを演出します

6．いこいの庭

●蔵の北側の既存林を背景に、春の桜から四季楽しめる花木（高木～低木）植栽により、来客の方々や蔵で働く人々、誰もが季節の花々を楽しみながら憩いの時を過ごせる空間を形成します

7．かこいの庭（外周林）

●既存林に囲われた蔵の外回りは、「お酒」の環境を守り、快適、安全に日々の業務を行うことができる、かこいの庭として位置づけます

1．導入口

■大船渡蔵でのお酒の販売や地域の人々との花見など、一般客の
来場を想定した個性的なサインで印象に残る導入口を創出
市道からの目印をつくり、入りやすい「酒蔵」の雰囲気を形成します

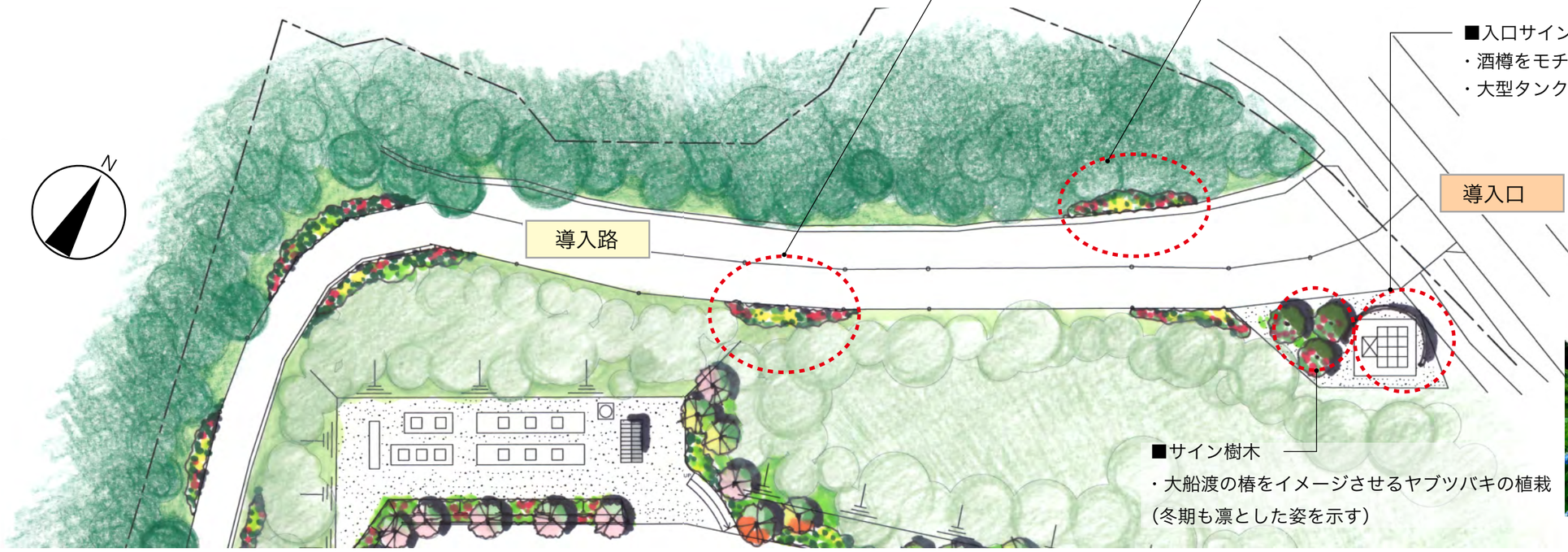
■サイン植栽
・ヤブツバキなど

■入口サイン

2．導入路

■沿道のポイント植栽
・地域の植生に合ったヤマツツジやツクバネウツギ、エゾアジサイ等に
　よる斜面植栽で春のツツジの道を形成
・道路のカーブポイントや裸地部に将来的に増殖させ
　てゆくことで華やかなアプローチを形成

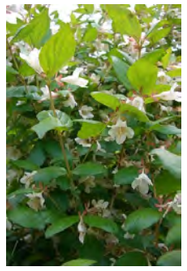
■入口サイン
・酒樽をモチーフとした印象的なデザイン
・大型タンクの遮蔽機能



■サイン樹木
・大船渡の椿をイメージさせるヤブツバキの植栽
（冬期も凛とした姿を示す）

ヤマツツジ

エゾアジサイ

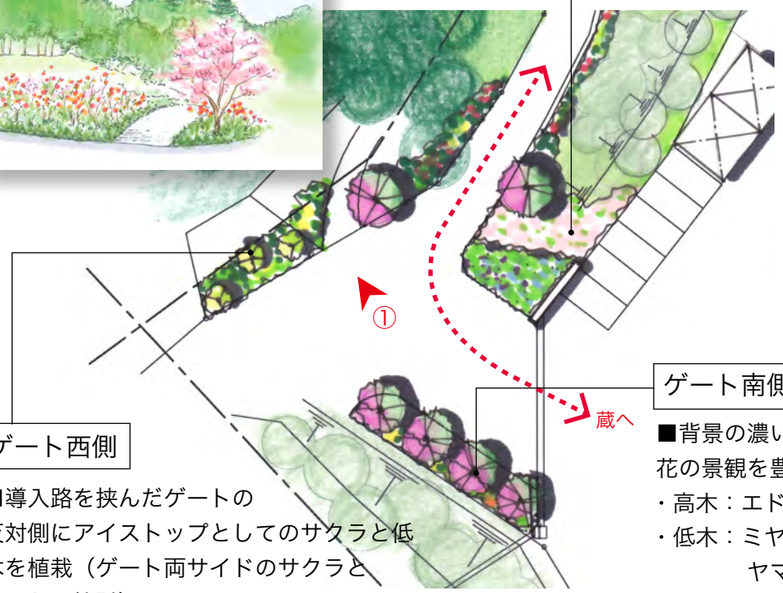


ツクバネウツギ

3. ゲート

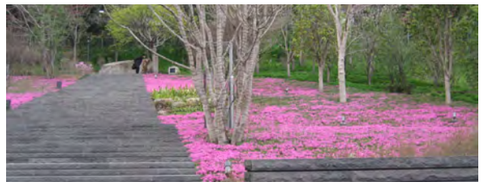
■導入路から大船渡蔵への導きのゲートとして、サクラを集中させ、印象に残る入口を形成します。
（導入路へのサクラ並木は日照不足により植栽困難と考え、ゲート周りのサクラを入口のアイストップとする）

・砂利撤去、土壌改良の後、植栽を行います。撤去した砂利は場内で活用
・内庭の「桜の庭」のソメイヨシノと連動して次々に花を咲かせるサクラや花木類を植栽
・建物を見せるよう高木植栽はセットバックさせる



ゲート北側

■入口のアイストップ樹木として、シンボルになるサクラ（ヤエベニシダレ、奥州シダレザクラなど）を植栽。お酒を飲んでほんのり赤いイメージの花
・低木：ニワウメ、ニワザクラ等
（ふわりと足元にもサクラ）
・地被：ヒナアラレ（バラ）、シバザクラ



ゲート南側

■背景の濃い緑に映えるソメイヨシノ以外の品種を入れ、花の景観を豊かにし、花見の楽しみが長くなるように植栽
・高木：エドヒガン、奥州サトザクラ、オオヤマザクラ等
・低木：ミヤギノハギ、ユキヤナギ、レンギョウ、
ヤマツツジ、ヤマブキ、リュウキュウツツジ等
・地被：メンテナンス軽減と雑草抑制を兼ねてシバザクラ
（濃ピンク）で 100%覆う等

ゲート西側

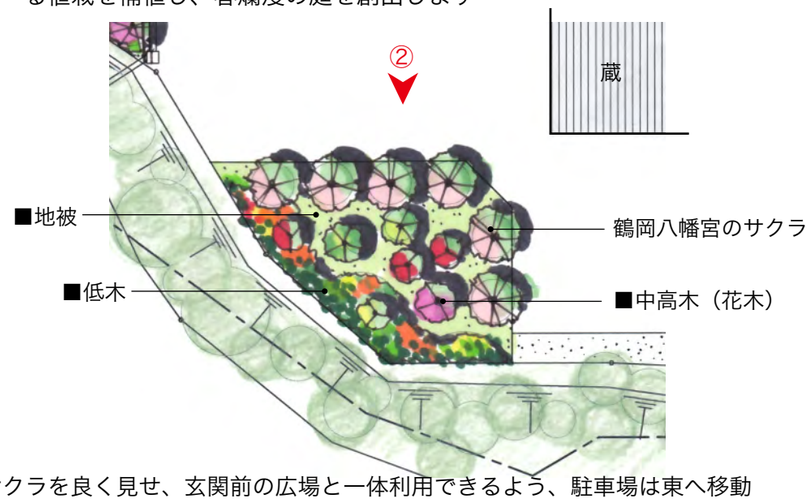
■導入路を挟んだゲートの反対側にアイストップとしてのサクラと低木を植栽（ゲート両サイドのサクラとセットで検討）
・低木：ユキヤナギ、レンギョウ
ヤマツツジ、リュウキュウツツジ
アセビ、ミヤギノハギ等

エドヒガン

ヤエベニシダレ

4. 桜の庭

■鶴岡八幡宮のサクラ（ソメイヨシノ）の後背には、桜と同時期に開花する植栽を補植し、春爛漫の庭を創出します



・サクラを良く見せ、玄関前の広場と一体利用できるよう、駐車場は東へ移動
・中高木：ハナモモ（白、紅、桃）、サンシュユ、ハナカイドウ等
（サクラを強調させる樹種、同時期に開花する花々を検討）
・低木：ユキヤナギ、レンギョウ、ヤマツツジ、ヤマブキ．コデマリ、キリシマツツジ等
・地被：芝生等（花見等、中に人が入ることも考慮）

ニワウメ

ニワザクラ

キリシマツツジ

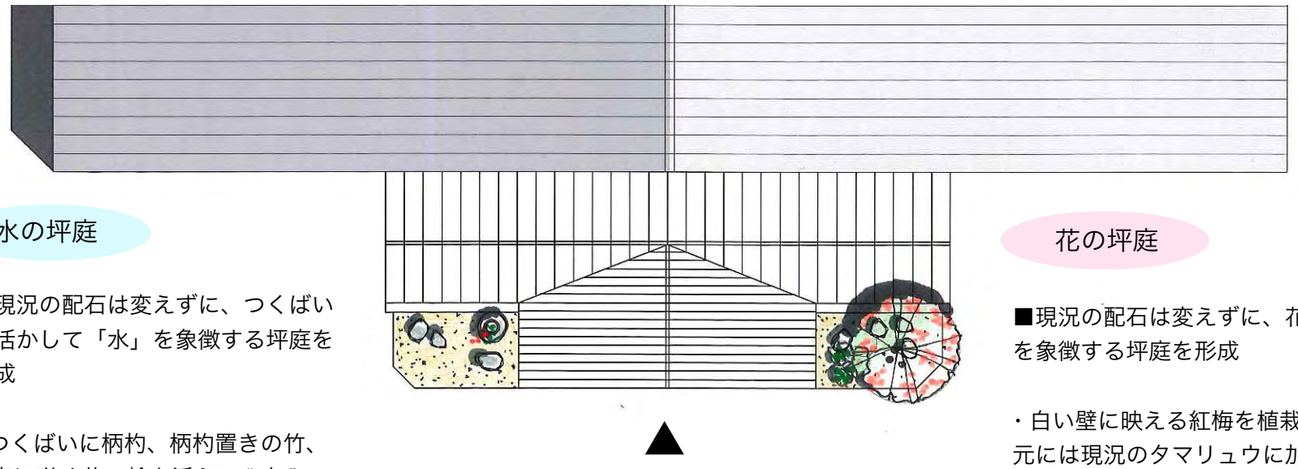
ユキヤナギ

レンギョウ

コデマリ

5．まねきの庭

■酒づくりには良き水、良き里、良き人があってこそ。建物の入口に配された坪庭を活かして、
「水と花の里」を象徴し、人を呼び込む招きやおもてなしを演出します



水の坪庭

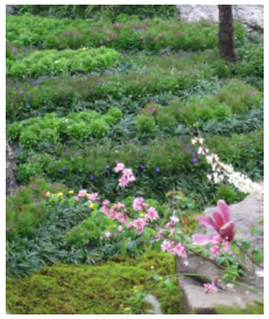
■現況の配石は変えずに、つくばいを活かして「水」を象徴する坪庭を形成

・つくばいに柄杓、柄杓置きの竹、庭に咲く花一輪を添えて“水”の清涼さを演出
・常にきれいな「酒づくりの水」をつくばいに毎日一杯

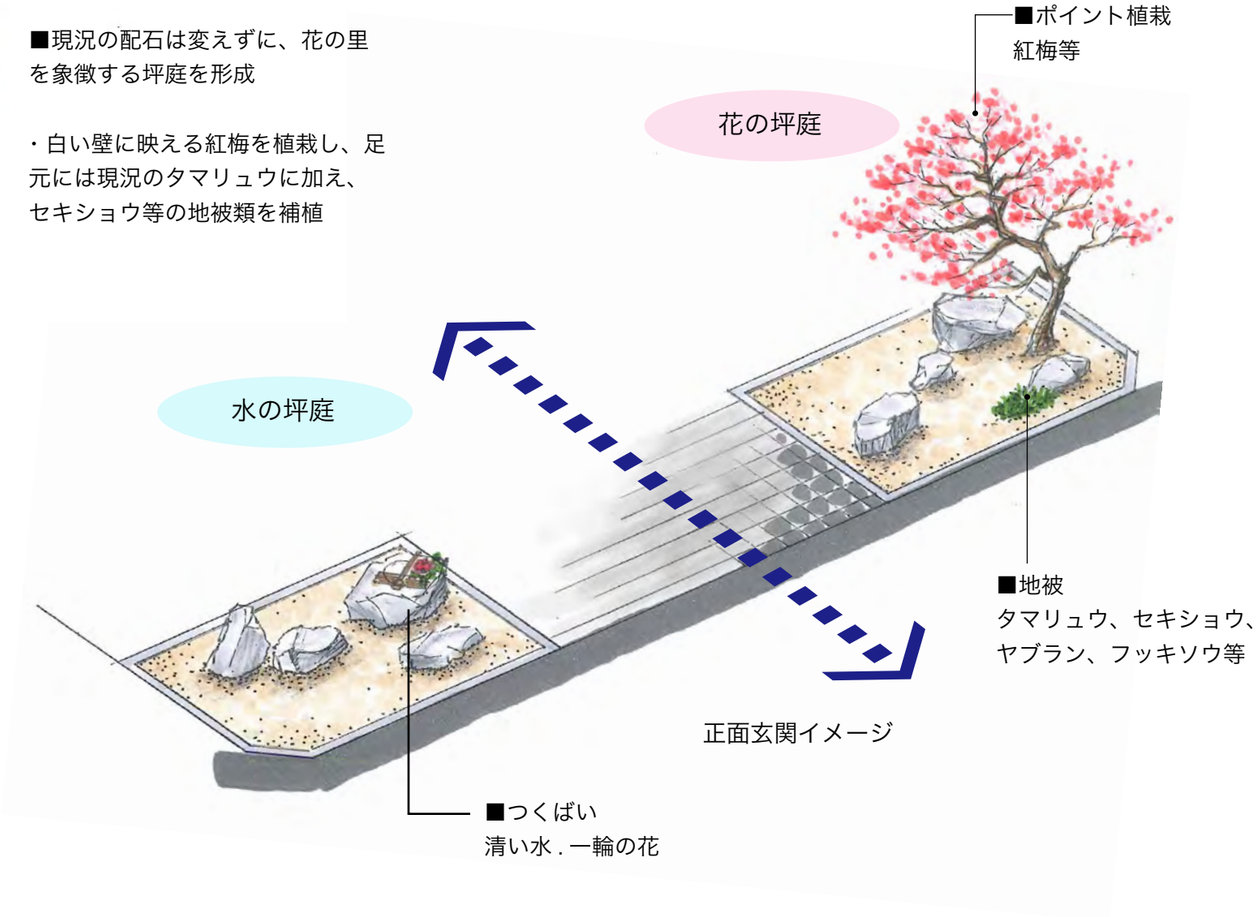
花の坪庭

■現況の配石は変えずに、花の里を象徴する坪庭を形成

・白い壁に映える紅梅を植栽し、足元には現況のタマリュウに加え、セキショウ等の地被類を補植


地被のイメージ

紅梅



水は清涼に保ち、花を一輪…

■つくばいのイメージ

6．いこいの庭

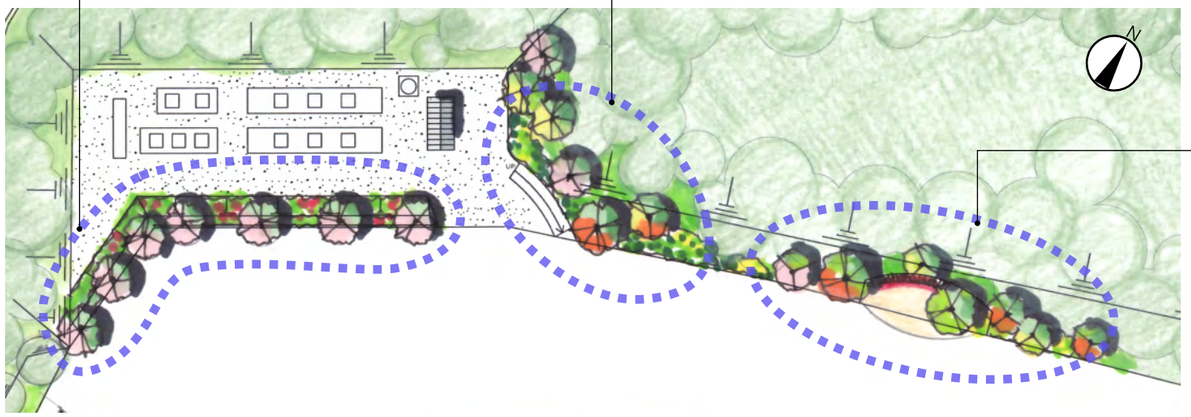
働く人々や来客の方々が季節の花々を楽しみながら、憩える庭を形成します

■フェンス周り
・奥州サトザクラ、カスミザクラ等の植栽
・既存フェンスにつる植物：ビナンカズラ、クレマチスほか
・フェンス足元、法面：シバザクラ等で地被
・緑で砂利のエリアを隠すのではなく、背景の緑と連続させる緑を植栽
・フェンス周りは砂利を撤去し、サトザクラなど高木を並木風に植栽

■林縁
・既存林の間に、高・中・低木等の花木を植栽し、春から秋への緑、花の変化を楽しむ演出。樹木だけでなく球根類 (スイセン、スノードロップ他) による親しみの花も少しづつ増殖させる

高木：カツラ、ヤマボウシ、ヤマザクラ、マメザクラ、オオモミジ、モミノキほか
中木：ガマズミ、オトコヨウゾメ、ダンコウバイほか
低木：カマツカ、ツクバネウツギ、キリシマツツジ、ヤマブキほか

■休憩コーナーのイメージ（ベンチなど）



■休憩コーナー
・働く人々が休憩の時を過ごす場所、また、来客の方々のお休み処としてくつろげるよう、枕木等の簡易な舗装による休憩コーナーを設置
・実生のマツなど背景の樹林の一部を間引いて林床を明るくし、花の咲く高中木、低木を植栽し、四季折々の花と香り、風を感じられる場所を演出
・高木：イロハモミジ、カツラ、ヒメシャラ、ヤマボウシほか
・中木：ハナカイドウ、ムクゲ、ライラックほか
・低木：アセビ、アベリア、カンツバキ、キリシマツツジほか

＜フェンス周りの植栽イメージ＞

サトザクラ

シバザクラ

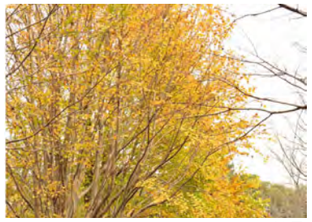
フェンスに登坂させる

ビナンカヅラ

クレマチス

＜休憩コーナーや林縁の植栽イメージ＞

■高木類


カツラ

ヤマザクラ

ヤマボウシ

ヒメシャラ

■低木類

カマツカ

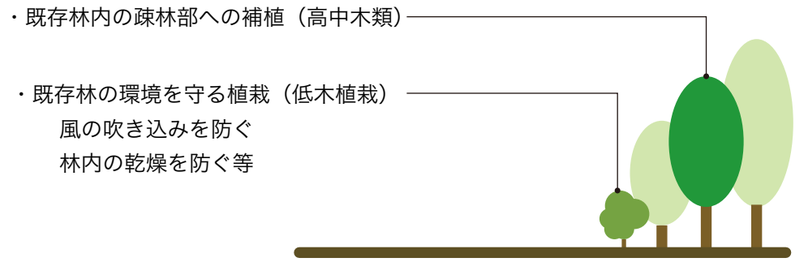
ミヤギノハギ

カンツバキ

ヤマブキ

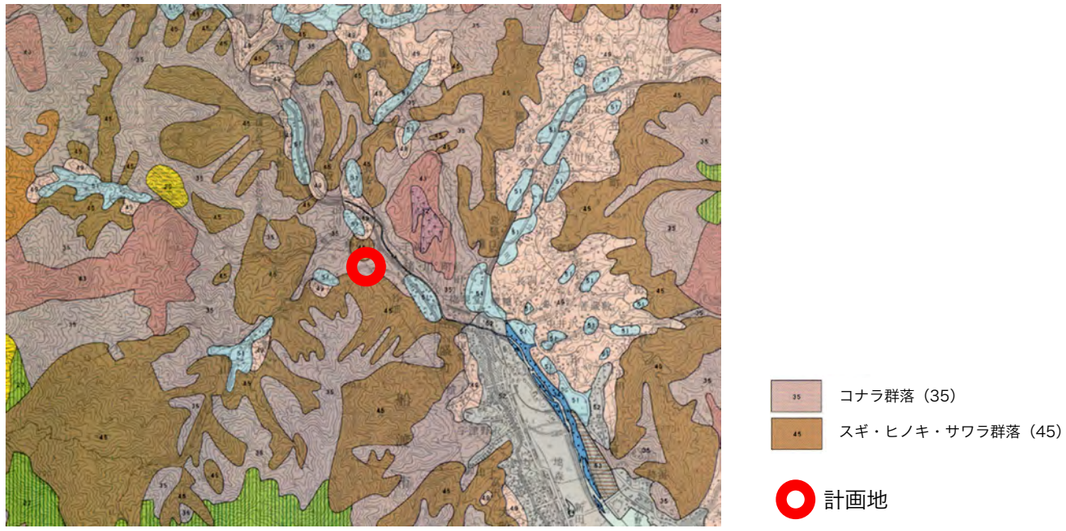
7. かこいの庭（外周林）

■既存林を背景とする外周部の酒瓶のストックヤード、洗い場等の作業スペースは機能・利用に支障がないよう、常緑樹を用いて保全します。



植栽樹種について

「大船渡蔵」は外周を緑に囲まれた、高台の良好な立地環境にあると言えます。この外周の既存林があることで蔵は守られ、日常も緑の景観が保たれています。また桜が開花する時期には、効果的な緑の背景となります。大切な既存の緑を保全・育成するために、この地域の既存の緑について把握する必要があります。



現存植生図（第２回自然環境保全基礎調査より）

■現況の緑の把握

計画地周辺は、現存植生図によるとコナラ群落（35）とスギ・ヒノキ・サワラ植林（45）に囲まれた植生です。北限植物は、オリーブ、アラカシ、ウバメガシ、タイサンボク、ヤマモモ、南限植物はシラカンバ、カラマツ、ブナになります。
自然のコナラ群落は、コナラ、アカシデ、クヌギ、クリ、カスミザクラ、エゴノキ、モミ、マルバアオダモが高木層、低木層にはコバノガマズミ、ヤマツツジ、オトコヨウゾメ、ミヤマガマズミ、ダンコウバイ、ネジキ、ガマズミ、ウリカエデ、カマツカ、チョウジザクラ、コマユミ、ツクバネウツギ、がみられると思われます。

■計画地の緑について

計画の植栽イメージとしては、「景観としての植栽」、「環境を保全する植栽」、「シンボルとしての植栽」が考えられます。顔となる部分は、景観・シンボルとなるようにし、環境保全を行う部分については緑の背景となるよう計画することが望ましいと考えます。

景観のシンボルになる今回提案しているサクラ類については、関東より冷涼な地区となるため、ヤエザクラや、ソメイヨシノより涼しいものを好むサクラ類の選択をおすすめします。
ヤマザクラの系統、オオヤマザクラの系統、カスミザクラの系統、マメザクラの系統が相応しいと考えます。また、エドヒガンの系統でシダレザクラ類も良好に成長すると思われます。

◇推奨サクラ類
エドヒガン、オオヤマザクラ、カスミザクラ、マメザクラ、ヤマザクラ、ヤエベニシダレ

◇景観として利用したい樹木
自然分布でも見られる花木で高木は、エゴノキ、コブシ、マルバアオダモ、中木ではオトコヨウゾメ、ガマズミ、ミヤマガマズミ、ダンコウバイ、低木ではヤマツツジ、ツクバネウツギがあり、これらは積極的に利用していきたい樹木です。

◇背景の緑地で利用できる樹木
コナラ、アカシデ、クヌギ、クリ等の落葉樹と、針葉樹のモミが利用できます。
常緑広葉樹では北限になっている、アラカシと自生指標樹木のタブノキも利用できます。

◇自然樹種以外で公園樹として利用されている樹木
以下のような樹種が蔵の周辺緑地で利用できます。但し、日照の有無が樹種決定を左右するため、現地での見極めが必要です。

■落葉広葉樹
高木：イロハモミジ、オオモミジ、カツラ、ケヤキ、ハナミズキ、ヒメシャラ、ヤマボウシ
中木：ハナカイドウ、ムクゲ、ライラック
低木：コデマリ、ドウダンツツジ、ハマナス、ビヨウヤナギ、ミヤギノハギ、ヤマブキ、
ユキヤナギ、レンギョウ
■常緑広葉樹
高木：アラカシ、ウラジロガシ、ウバメガシ、シラカシ、タブノキ
中木：アラカシ、イヌツゲ、ウバメガシ、マサキ
低木：アセビ、アベリア、カンツバキ、キリシマツツジ、コトネアスター、サツキツツジ、
ジンチョウゲ、ヒラドツツジ、リュウキュウツツジ
■常緑針葉樹
高木：アカマツ、ウラジロモミ、クロマツ、ドイツトウヒ
中木：アスナロ、イチイ
低木：キャラボク、ハイビャクシン

全国女性造園技術者の会

〒101-0052
東京都千代田区神田小川町 3-3-2 マツシタビル 7 階
社団法人 日本造園組合連合会内

全国女性造園技術者の会 事務局

tel: 03-3293-7577　fax: 03-3293-7579
website: http://www.green-web1990.com